

# 川端・前原氏が入閣

## 政権交代後の舵取り担う



川端達夫文部科学相

鳩山新内閣が十六日に発足し、川端達夫氏(昭和43年工学部卒)が文部科学相、前原誠司氏(昭和62年法学部卒)が国土交通相・沖繩及び北方対策担当相・防災担当相に就任した。共に初入閣で、政権交代後の難しい舵取りを担うことになる。



前原誠司国土交通相

川端氏は本学卒業後、東レのエンジニアとして勤務していたが、労組活動を原動力に政治家に転身、一九八六年に旧民社党から初当選した。岡田克也代表時代に

教授門下で、松下政経塾出身。九一年京都府議会議員を経て、九三年に日本新党から初当選。二〇〇五年衆院選の民主進歩後に党代表も経験している。民主党の政権移行の一つである八ツ場ダム建設事業を中止する考えを表明しているが、地元からの反発など課題も多く、その手腕が問われるところ。また、高速道路の無料化は段階的に実施していくとしている。京都二区選出。  
また、十八日には副大臣二十二名が発表され、外務副大臣に福山哲郎氏(平成7年法学研究科修士課程修了)、経済産業副大臣に松田忠洋氏(昭和37年農学部卒)がそれぞれ選出された。

# 李登輝氏が来日

## 坂本龍馬ゆかりの地巡る



講演する李氏(写真提供:日本李登輝友の会)

元台湾総統の李登輝氏(昭和18年農学部入学)が四日から十日にかけて訪日

し、東京、高知、熊本を訪れた。各地での講演の他、知人らとの懇親の場を持つ

た。李氏の訪日は昨年の沖繩訪問以来、二〇〇〇年の李氏退任後、五度目の訪日となる。

李氏は四日、曾文惠夫人と共に成田空港に到着。夜には自身が主催した晩餐会に参加。森喜朗元首相をはじめとする、李氏の友人百人以上が出席した。翌日には、二千人近い聴衆が集う日比谷公会堂で、「龍馬の『船中八策』に基づいた私の若い皆さんに伝えたいこと」と題した講演を行った。

訪日三日目の六日には高知県を訪問し、「龍馬の『船中八策』と台湾の政治改革―江口克彦社長の提

# 女の磨き方教えます

## ベンチャーのぞみが主催

本学発ベンチャー企業、株式会社ぞみが主催する、「京女によるオンナ磨き塾」が二十五日から「京料理すまや」で開催される。京女による一日講座で、京都の食と着物について学ぶことができるという。

講師を迎えるのは、富宏染工株式会社の藤井友子氏と創業七十年の歴史

を持つ京料理すまやの四代目女将・藤田博子氏。「素敵な豊かな着物の装い」や「美しくなるための京都の食」について学ぶことで、オンナを磨く。

今月二十五日から来月三十日までの毎週金曜日に開催予定。参加費は昼食代込みの四千五百円で、定員は各回二十名。問い合わせはTEL075・254・0

### 岐阜市長選 4選目指す

岐阜市長選に現職の細江茂光氏(昭和46年法学部卒)が十五日、四選を目指して出馬することを正式表明した。細江氏は来年二月で現在の任期満了となる。

### 生駒市長選 新病棟の是非

任期満了に伴う生駒市長選で、現職の山下真氏(平成10年法学部卒)が八日、再選を目指し、無所属立候補を表明。議会と対立中の新病院設立の是非を問う。

言」と題して講演した。P H P 総合研究所社長の江口氏が、総統時代の李氏に送った激励の手紙の中に、その後の台湾民主化の舵取りを示唆する、龍馬の「船中八策」に託した提言があったという。また、高知県への訪問は今回が初訪問で、龍馬の生まれたまち記念館などを訪ね、坂本龍馬の足跡を辿った。

八日、最後に訪れた熊本では、熊本城を見学した他、夜には熊本市内のホテルで三度目の講演を行った。講演は「台湾と日本百年来の歴史及び今後の関係」と題し、日本と台湾が心の絆をさらに深めていくことの重要性を訴えた。李氏は十日に台湾に帰国。七日間の訪日を終えた。

学経済学部卒)が本学在学中の二〇〇一年に学生団体としてスタートさせた。京都本・京都ガイドなどの企画・製作を手がける本学発のベンチャーで、〇五年に株式会社化。

★宴会・飲み会は『きてや銀閣寺』へ★  
 ホットな Jazz ♪ と備長炭の焼き鳥で乾杯! 深夜2時まで営業  
 ★焼き鳥と各種1品料理 ネット『ぐるなび』で是非ご検索を★  
 お席の予約も大歓迎 Tel 751-6000  
 きてや銀閣寺 今出川通と白川通の交差点 南西角から3軒目

英会話教室 & 海外留学 Venetia International  
 ペニシア国際英会話スクール  
 http://www.venetia-international.com/  
 〒606-8202 京都市左京区中田大塚町100  
 (075) 711-6515 (075) 702-4004

無料体験レッスン受付中!  
 \*月謝制でいつからでも始められます。振替レッスン可  
 \*優秀な外国人講師  
 \*百万遍近く(月~金曜日)

ひなぎく心理ルーム 学割有り  
 ・臨床心理士がお話を伺います  
 ・詳しくはHPをご覧ください  
 〒606-8175 京都市左京区一乗寺築田町96-2 http://www.hinagiku.biz  
 上終町京都造形芸大前下車 完全予約制 ☎722-9022

### 幹細胞をめぐる国際競争

これから京都大学で理系の勉強をする学生に送るメッセージ

理化学研究所 幹細胞研究グループ ディレクター 西川 伸一 (京大医学部 1973卒)

山中教授による iPS 細胞(誘導多能性幹細胞)の作成が生命科学の分野や薬品開発などの分野に果てしない新境地を開いたことは、学生諸君もよくご存じでしょう。将来、自分ほどの分野に入って研究をしたらよいか、就職先はどうしようかと迷う人達にとって、少しでも役立つ指針となればと思いこの文章を寄稿します。

世界各国の研究者や政府にとって、幹細胞研究は他の生命科学諸領域にはない魔力を持っているようだ。幹細胞を用いる医療や産業に期待する国は、この分野でそれぞれの国の研究者が一步でも前に進めるよう積極的な助成を進める。シンガポール、イスラエル、韓国、欧州の国々、そして日本のような資源のない国では特に力が入る。しかし、資源国もその重要性はしっかりと認識している。エジプトやイランでは重点領域とされている。ただ、経済だけがこの領域への関心ではない。世界中の多くの国では、様々な理由でこの研究を規制している。

このような魔力を持つ幹細胞とは何か? また、その魔力はどこから来るのか? それは、試験管内で増殖させることが可能で、そこから体の様々な細胞を作ることができる細胞だ。この意味で、「細胞の中の王」、「究極の細胞」である。多くの幹細胞は、また大変賢い。我々の体の中で障害を自ら察知し、必要な細胞を供給する能力を持っている。この意味で、再生医療の切り札となる。

最近私が監訳して出版された『幹細胞 WARS』は、このような世界各国の幹細胞をめぐる研究の熱気が、詳しい現地調査に基づいて書かれているノンフィクションであり、熱読できる本である。世界中で同時進行するフィーバーを丁寧に検証し、たとえば大騒ぎになった韓国のヒトクローンES細胞ねつ造事件などは、実況中継でも見ているように記述されている。

この本から若い研究者は何を学ぶのだろうか? ただ明らかでないことは、研究が研究者同士の狭い世界に決してとどまることなく、多くの階層を巻き込んだ世界的イベントであることをこの本からしっかりと学べることは間違いない。

『幹細胞 WARS』  
 — 幹細胞の獲得と制御をめぐる国際競争 —  
 シンシア・フォックス著、西川伸一監訳、志立あや、千原啓恵、三谷祐貴子訳、四六版、上製 600頁  
 定価 3,990円(本体 3,800円+税) ISBN:978-4-903532-37-0 C3045  
 本の詳細情報 (http://www.ittoha.co.jp/ISBN978-4-903532-37-0.html)  
 (翻訳者のうち2人は京大卒: 志立あや=京大理学部卒、三谷祐貴子=京大大学院農学研究所修士課程終了)